

社会医療法人近森会 ● 障害者雇用の状況報告

現在、法定雇用率を上回る 20名[※]の方が勤務

社会医療法人近森会
管理部総務課課長 小松 左和



2013年4月1日から、民間企業における障害者の法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げとなりました。

「障害者雇用促進法」においても医療業は障害者の就業が一般的に困難な業種とされています。

機能分化の進んだ近森会では給食、清掃、洗濯などの周辺業務は既に業務委託され、職員として雇用するための業務が極めて少ないのが実情です。法定雇用率を達成するためには仕事を見つけ出すことが最重要課題となりました。

当初は難航した作業でしたが、声掛けした所属長から、思わぬ仕事のご提案をいただくことができました。また、求職者にお会いすると、この方にはあのお仕事はどうだろうというようなイメージができることもあり、しだいにその数が増えていきました。

ただ、身体や知的、精神に様々な障害を抱えた方々が、職場に適応するのは容易ではありません。ご本人も不安ですし、受入れ側も正直なところどのように接したらいいのか、どの程度仕事を任せさせるのか分からない状態でした。

こうしたなか、今回大きな役割を果たしてくれたのがジョブコーチ（職場適応援助者）です。細やかな指導と職場との調整のおかげで、双方の不安と負担を大きく軽減することができまし

た。

また、近森会も雇用の定着を目的に、障害者雇用推進マネージャーを新設配



高知障害者職業センターの方と打ち合わせ中

置しました。「何か困ったことがあったらいつでも相談してよ！」などと、声掛けをする田村マネージャー（健保組合事務局長と兼任）に励まされている方も多いと思います。

いまでは法定雇用率を上回る20名の方が近森会に勤めておられます。いつの間にか「居てもらって助かる」存在となり、「居てもらわなければならない」存在に変化してきたある方は、この就職を夢のようだと語られました。

私たちが忘れかけていた大事なことを教わっている気がしています。

こまつ さわ

※注 重度含め22名カウント

メディカルスタッフ・ワークウェア12 麻酔科

モデル：清水達彦医師

手術により、部屋の温度を下げる事もあるので、専用の防寒着も



術後鎮痛に使う、PCA（患者調節鎮痛法）装置の鍵など

他部署がウェアを変更しているのを見て、カッコいいな・・・！と麻酔科医も1年程前、ワークウェアを採用した。色は清潔感のある渋めの青色にした。手術室のカメラを見た時に見分けが付きやすくなったし、機能的で満足している。

麻酔科医の仕事は、患者さんの術前の不安を取り除き、安全に手術を受けられるよう、術中の全身麻酔管理をすることである。手術室のスムーズな運営を担い、縁の下の力持ちと捉えられることもあるが、術者とは両輪の関係であり、必要とあれば術者に警告を行い、患者さんの命と安全を守る「意識のない患者の代弁者」である。

麻酔科医をしていて、やはり一番うれしいのは、患者さんの順調な回復と「安心して手術に臨めました」と感謝の言葉をもらった時。それを原動力にして、彼らは今日も患者さんの命を見守り続けている。

小腸内視鏡の今昔

近森病院消化器内科

部長 高松 正宏



小腸とは胃と大腸の間にあり、長さが6mもあります。これを内視鏡で観察するにはかなり困難を極めていました。

1970年台にプッシュ式、ロープウェイ式、ゾンデ式の3つの方法が開発されました。プッシュ式は文字通りひたすらプッシュ（押す）する方法で、かなりの苦痛を強いられ、小腸の一部しか観察できませんでした。ロープウェイ式はあらかじめ長い紐を飲んで

でいただき肛門から出るのを待ちます（ちょっと想像しにくいですね）。これに沿って内視鏡を進めていく方法です。ゾンデ法は細長い内視鏡を鼻から入れて、腸の動きで少しずつ進むのを待つ方法です。いずれの方法もかなりの苦痛を伴ったり、確実に小腸全部を観察できなかったりで、広く一般に受け入れられることは残念ながらありませんでした。

しかし2000年にみなさんご存知の「カプセル内視鏡」が開発されました。

また、2001年には「ダブルバルーン内視鏡」が考案され2004年より発売されました。これは内視鏡をオーバーチューブと呼ばれる筒の内側に通して二重構造にし、内視鏡と筒を尺取り虫のように交互に進ませる方法です。カプセル内視鏡は苦痛は少ないのですが、病気を発見してもそれを取り除いたりすることはできません。ダブルバルーン内視鏡は内視鏡を使った治療への応用ができますが、やはり多少なりとも身体的な苦痛は伴います。現在はこれらをうまく組み合わせて検査・治療が行われています。（注：当院では現在カプセル内視鏡は実施しておりません）

内視鏡の進歩は目覚ましいものがあり、今後さらに開発が進み、小腸に対しても苦痛のない確実な検査治療ができるようになることを期待しています。

たかまつ まさひろ

7月の歳時記

トルコ桔梗

高知メンタルリハビリテーションセンター
メンタルクリニックちかもり
作業療法士

川渕 佐織

トルコ桔梗は北米原産のリンドウの仲間です。現在200以上ある品種の殆どが日本で作られ「シュークリーム」「あすかの新雪」「まほろばピンクフラッシュ」等、楽しい品種名があります。花言葉は「優美」「希望」「清々しい美しさ」「良い語らい」etc.。「良い語らい」・・・家庭で、職場でそんな時間がもてたら素敵ですね。

かわぶち さおり



絵・総務課
広報担当 公文幸子

ゲルダ・タローはスペイン内戦で1937年に死亡した女性カメラマンである。恋人であったアンドレ・フリードマンと2人で、パリでロバート・キャパという架空の写真家を名乗った。スペイン内戦はヘミングウェイの「誰がために鐘は鳴る」やピカソの「ゲルニカ」で有名な、フランコ將軍の反乱軍（右翼）+ ナチスドイツ+ イタリア軍が、ソ連とメキシコが支援した共和国政府（左翼）・人民戦線・国際義勇軍を破った内戦である。オーウェル（英国人、「1984年」の著者）、マルロー（フランス人、のちにドゴール政権の文化相）など欧州の作家たちが人民戦線に参加し、結果として今日まで圧倒的に敗者（共和国）側から熱く語られてきた戦争である。

ゲルダはユダヤ系ウクライナ移民の子供としてドイツに生まれ、パリで写真家になり、ドイツ語、英語、フランス語を話した。ナチスに逮捕された過去を持つゲルダは当然、共和国軍に肩入れしたが、戦場で暴走

した共和国軍戦車に衝突され26才で死去した。フランス共産党は彼女が党员でなかったにもかかわらずパリで壮大な葬儀を行ない、ジャコメッティが墓碑をデザインした。数えきれないほどの欧州の新聞や雑誌がゲルダの死を報道し、若くして死亡した美貌の彼女は歴史の一瞬だけヒロインになったが、極めて短期間

のうちに忘れられてしまう。

この内戦の特徴は欧州の新聞に戦争写真が報道されたフォトジャーナリズムで、今もその悲惨な写真を閲覧できる。女性の進出も特徴で、ヘミングウェイと結婚、離婚したマーサ・ゲルホーンはこの内戦で戦場特派員になった（その後、世界中の戦場に赴き、89才で死去）。内戦当初、共和国軍は女性兵士を募集、新聞は女性兵士の写真を紙面に飾ったが、戦争が深刻化すると女性兵士は前線から外された。

なお、ゲルダ・タローの本名はゲルダ・ボホリシ。タローは当時パリにいた岡本太郎の名を借用したとのことだ。

気儘エッセー 2

女性戦場カメラマン ゲルダ

近森病院外科部長
たなか ようすけ
田中 洋輔



看護部インターンシップ 2013-夏

近森病院第二分院 3 階
看護師長 中島 久美



近森病院は来年度の完成にむけて、
病院をあげて看護師確保に奔走してい

私の趣味 1969 年式カローラ

健康保険組合
事務局長 田村 裕彦



私は小学生の頃から車が好きで、大人になったら白いサニークーペを買おうなどと思っていました。それから 30 年ほど経った平成 11 年ごろ、中古車店でそのサニーのライバルである初代カローラを見かけ、ナンバーが「高 5」という当時のシングルナンバーが付いていたので思わず買ったものです。

その頃の大衆車には珍しいクーラー（エアコンではない）が付いていた、ミッションも今では見かけないマニュアルコラムシフトだったり、立ち回り先の駐車場ではオジサンたちに「懐かしいね」とよく声をかけられました。

高速は怖くて走れませんでした。故障箇所をコツコツ直したりランプ、ステアリング、ホイールなどを当時モノのアフターパーツに変えてみたり、流れる曲も黛ジュンとかグループサウンズだったりとしらべはいろいろでした。クールスタートでは今の車のように 1 発ではエンジンがかからず、チョークを引いてアクセルを 2、3 回踏んで、などの「儀式」が必要でした。

残念ながら保管場所の都合でつい最近手放しましたが、ネットトヨタ南国の横田英毅取締役役に救っていただき、近いうちに香南市にある「四国自動車博物館」に展示されることとなりました。

たむら ひろひと

ます。その取り組みとして、各診療科の看護師が職場の雰囲気や仕事内容、この人たちと働いてみたいと思うような企画をねり、近森会の医療・看護・人・風土を分かってもらいインターンシップを開催します。

この夏は、7 月 22 日から 8 月 23 日まで、8 コースほどのインターンシップがコースごとに日程が決められて実施されます。

今回は「まると近森欲張りコース」の紹介をします。このコースは、この期間中毎週金曜日に開催され

ます。コースの特徴は、近森オルソリハビリテーション病院、近森病院 ER、近森リハビリテーション病院、第二分院と近森会グループの全病院の見学ができるということでオープンホスピタルに似たプログラムになっています。

各部署で薬剤師や理学療法士、管理栄養士と話をし、近森のチーム医療を体感できるようになっています。このことから「まると近森欲張りコース」としました。

看護学生の方は、多職種と話す機会は少ないと思うので一度チーム医療の中の看護師を見てみませんか。大勢の方の参加を近森の職員全員でお待ちしています。

なかじま くみ



蕎麦屋酒



近森 正幸

前回の続きである。昼間に飲む酒は抵抗があるし、ゆっくり楽しめないが、蕎麦屋で飲む日本酒だけは別物である。

そもそも江戸の昔から、旦那衆が小腹がすいたときにいいお酒とともに楽しめるのが蕎麦屋だった。そんな粋な食べ方をする習慣がないところに、中ノ橋の蕎麦屋さんのたいへんさがあるのではと想像する。

まず頼むのは純米酒のぬる燗がいい。一合徳利が入るぐらいの器(燗助)

にお湯を張り、ふたに置いて冷まして、好みの具合で飲めるのがいい。酒の肴もいろいろあって、焼き味噌やたまご焼き、焼き鳥、旬野菜の天麩羅など、蕎麦の種ものをつかっているので純米酒にはよく合う。

そばがきにワサビをきかせたり、メニューにはないが出汁に浸った天ヌキ（天麩羅蕎麦の蕎麦を抜いたもの）や鴨ヌキなどを酒のアテにするのもいい。天ヌキや鴨ヌキの出汁で純米酒を割るのもまたおつまみ旨さがある。

出汁もしっかりとらないといけないし、天麩羅や鴨がよくないこのスープ酒を味わえない。ときには田舎蕎麦（十割蕎麦）を頼み、粗塩とワサビをアテに、残り少なくなったお酒を気にしながらちびちびとやる。これが究極の蕎麦屋酒ではないかとわたしは思う。お酒は 1～2 本にして、火照った身体をざる蕎麦で冷やして、最後にそば湯を楽しむ。

妻に叱られずに堂々と昼酒を飲むことができるのも、この蕎麦屋酒の醍醐味でもある。

理事長・ちかもり まさゆき

点滴センター紹介

チームでかわる 安全な外来化学療法を めざして

点滴センターでの化学療法

外来センター 6階の点滴センターでは、外来での化学療法、すなわち各種癌に対する抗癌剤・分子標的薬点滴、がんの骨転移等に対するゾメタ点滴、癌以外の病気に対する分子標的薬（レミケード、アクテムラ、オレンシア）点滴の他に、ホルモン効果を持つ抗癌性腫瘍剤の注射、抗癌剤治療中の患者さんに対する補液、輸血も施行しています。

外来での抗癌剤治療

化学療法は、手術後に抗癌剤治療を追加して完治を目指す場合と、完治はできなくても長期間通常の生活ができることを目的とする場合があります。点滴センターでは、治療を通院で行なうことで、患者さんの日常生活パターンを変えることなく治療を継続することを目指しています。

抗癌剤治療は長い道のりをゆっくりと歩く過程に似ています（稀には数回で劇的な効果が出ることもあります）。何週間か毎に繰り返して、粘り強く治療を行なうことが必要です。抗癌剤治療は、手術などのような1回で済む治療ではないため、もし治療期間すべてを入院で行なうと、1年のほとんどを入院していることになります。

20年以上前には抗癌剤治療は入院で行なわれ、患者さんは窮屈で不便な入院生活を強いられていました。その後、白血球減少時に皮下注射で白血球を血液中に動員する薬の登場（約20

年前）、吐気嘔吐などの副作用を抑える画期的な薬の登場、白血球減少などの副作用の出現時期（点滴後の日数）が判ってきたこと、化学療法に関するガイドラインの整備により、がんセンター以外の病院でも、外来で安心してできるようになりました。

抗癌剤治療の実際

抗癌剤治療の効果判定は、主治医の外来診察での画像診断や腫瘍マーカー値で可能です。しかしそれ以上に大切なことは副作用（医学用語では有害事象と呼びます）をできる限り減らして、効果のある抗癌剤を長く使い続けることです。

そのため、当センターではまず抗癌剤治療開始前に、薬剤師、看護師から薬剤と日常生活に関する注意事項をご説明します。開始後は、看護師、薬剤師、歯科衛生士が聞き取りと観察を行ない、症状が重い場合は主治医に報告して副作用に対する補助療法の提案をしています。



抗がん剤等の無菌調整中（薬剤師）



点滴センター

さんの自宅での状態を聞き取り、観察する体制や、採血時に点滴針を入れ1回で済ませるやりかたを検討中です。



かつら



治療前に薬剤師や看護師による面談を行う

後列左から吉川幸恵看護師、川村知子薬剤師、田中洋輔外科部長、植田有香薬剤師、山田琴絵クラーク、前列左から清遠朋巳看護師、濱田真夏薬剤師、宮崎俊明薬剤師、西野光歯科衛生士



ます。問題点は入院と違い様子を毎日観察できないことで、とくに高齢の患者さんに多いのですが、来院時に自宅でのしんどかったことを正確に思い出せなかったりすることがあります。そこで「治療日記」という用紙をお渡しして、体調を記載して貰っています。

このように当センターでは、聞き取りと助言を行ない、患者さんに日常生活パターンを変えることなく治療を続けて頂き、治療成果を上げることを目的としています。

今後の課題

今後の課題として、医師診察の前に看護師、薬剤師、歯科衛生士が、患者

保険診療で規定されている外来化学療法及び、近森病院 2012 年の件数

- 癌に対する抗癌性腫瘍剤（抗癌剤、分子標的薬）点滴
対象疾患は大腸癌、胃癌、膵胆道癌、肺癌、泌尿器癌、乳癌等、件数は 839 件
- レミケード、アクテムラ、オレンシア等の分子標的薬点滴
対象疾患は慢性関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎等、がんの骨転移に対するゾメタ点滴、件数は合計で 212 件
- ホルモン効果を持つ抗癌性腫瘍剤（リュープリン、ゾラデックス、ゴナックス、フェノロデックス）の皮下、筋肉注射

対象疾患は前立腺癌、乳癌、件数は約 300 件
その他の補液、輸血も合わせると年間約 1500 件前後の点滴や注射を施行しています。

化学療法予約、医師のオーダー、看護師入力の見察記録は電子化され、化学療法記録は患者さん毎に実施履歴を一覧できます。

● 設備

専用ベッド 8 床（5 床は個室仕様テレビ付き、3 床はカーテンによる仕切り）
専用チェアー 2 台（テレビ付き）

院●内●勉●強●会

糖尿病サポートチーム

「1型糖尿病～診療の基本」

近森病院

糖尿病・内分泌代謝内科

部長 公文 義雄



インスリンが枯渇して代謝異常を起こす1型糖尿病は、肥満に伴って発症する2型糖尿とは治療が異なります。5月31日に新潟大学特任講師小川洋平先生に「1型糖尿病～診療の基本」のご講演いただきました。1型糖尿病

は、糖尿病全体の僅か数%と稀ですが、感染症などを契機に意識障害を伴って突然発症することもあり、救急病院である当院にも関わりが深い。

発症後はたとえ小児でも生涯にわたる過不足のないインスリン補充が必



要です。そのためには初期教育や自立を願う継続的なサポートが重要であり、ご講演でもその点を強調されていました。そのような患者さんが先日も救急搬入されましたが、スタッフの献身的な心と体のサポートで患者さんは乗り越えられ、社会復帰されておられます。勉強会を機に患者支援の輪が更に大きくなれば嬉しい限りです。

くもん よしたか

第102回日本循環器学会
中国・四国合同地方会

研修医部門

最優秀賞いただきました



心室頻拍を合併した
下壁梗塞による巨大心室瘤の1手術例

初期研修医 菅根 裕紀

今回はこのような賞をいただくことができ、誠に光栄に思っています。ご指導いただいた循環器内科、心臓血管外科の先生方、そして画像等を準備して下さったコメディカルの皆様には本当にお世話になりました。特に要先生にはご多忙中、ギリギリまで熱い指導をしていただいたことに心より感謝しています。色々大変でしたが、入職から1年間でこれだけ頼りになる素晴らしい人たちと出会えたことを改めて実感しました。

症例自体は非常に珍しいものでしたが、背伸びせずシンプルにプレゼンできたのが良かったのだと思います。

研修期間も残り1年を切りましたが、この結果に満足せず発表も臨床も積極的に取り組んでいきたいと思っています。

すがね ひろき

院 外 エ ッ セ イ

マラリアの幻覚

神田 優 NPO法人黒潮実感センター長理事

1966年高知市長浜生まれ。子どもの頃からの海好き、釣り好き魚好き。高知大学農学部時代は釣りと高知県・沖縄県座間味島でのダイビングガイドで生計を立てた。総潜水時間7000時間以上。大学院博士課程で東京大学海洋研究所に在籍し、平成8年に学位農学博士取得。専門は魚類生態学。平成10年から柏島に移り住み、大学の非常勤講師を続けながら、黒潮実感センターの設立にむけて奔走した。



黒潮実感センターを立ち上げる1年前の1997年、私はアフリカ中東部に位置するタンガニーカ湖に生息する魚類シクリッド（カワスズメ科）の研究のためザンビアに渡った。この地域にはコレラや腸チフス、赤痢、黄熱病、マラリアや住血吸虫など恐ろしいものがたくさんある。出発1、2カ月前から様々な予防接種を打っていた。

マラリアは感染率が高く特に気をつけなければならぬ病気だ。湖のそばで蚊帳をシングルベッドに敷き込むように張って寝るのだが、狭い蚊帳に身体が触れていると蚊帳越しに刺されることもある。マラリアの予防薬を飲み続けることで発症を防ぐのだが、疲れて抵抗力が下がると発症する。2カ月の調査期間の残りが10日余りになり、休み返上で無理をして調査に没頭した。

そんなとき調査地の近くで新船の進水式があった。雨季でけっこう波があり、粗雑な作りの新船は沈んでしまった。潜って調査中だったため、俺にまかせろとそのボートまで泳ぎ、ロープをかけて岸近くまで引っ張り、地元の人たちと引き上げた。かなり疲れたが、歓声を上げ「Mr. KANDA Yeah! Yeah」と私を取り囲み、踊って喜んでくれた。

意気揚々と引き上げた2日後、ちょっと頭痛はしたが潜って調査をしている

と、急にガクガクと全身に寒気がして、頭がガンガン割れそうに痛みだした。クラクラしだして体温を測ると何と40度！20年以上熱など出たことがなかった自分の体温とは思えない。マラリアが発症した瞬間だった。

金槌でガンガン叩かれるような頭痛が続き、熱で身体中の節々や筋肉が痛み、下痢を伴うためトイレとの往復。気温は35℃なのに、毛布をかぶっても寒気が止まらない。目をつむってもずっと悪夢や幻覚に襲われる。幻覚は原色の赤、青、黄、緑、白でウルトラセブンのオープニングの文字がぐるぐる回っているような感じだった。

薬で熱は下がらないし、何より頭痛で気が狂いそうだった。ベッドの中で何度も手を合わせ神様やご先祖様を拜んでいた。数時間おきに体温を測り、「3日熱マラリア」であることがわかった。

発症から1週間、帰国のためタンガニーカ湖の調査地を離れなければならない日の朝、やっと熱が治まり頭痛も引いた。調査地から空港のある首都ルサカまでの距離は1,300km。1泊2日の行程で車の後部座席で横になり、ガタガタ道を揺すられながらの長旅。そんな地獄の苦しみさえも今となっては懐かしいだけのいい思い出である。

「厨房」から「臨床」へ

近森病院臨床栄養部
部長 宮澤 靖



多くの部署がこの10年間で大きな変貌を遂げてきていることと思いま

● お知らせ 医療従事者対象 ●

◆第111回地域医療講演会
「医療者が自分でマネージメントする
法的リスク」
日時：7月4日(木) 18:30～19:30
会場：管理棟3階会議室
講師：中京大学法科大学院専任教授
稲葉一人先生

◆第112回地域医療講演会
「遠隔成績と手術侵襲からみた
大動脈外科の現状と展望」
日時：7月26日(金) 19:00～20:30
会場：高知パレスホテル
講師：名古屋大学医学部附属病院
心臓外科教授 碓氷(うすい) 章彦先生

◆第113回地域医療講演会
「致死性不整脈治療のupdate」
日時：8月16日(金) 18:00～19:30
会場：管理棟3階会議室
講師：杏林大学医学部
第二内科学(循環器内科) 准教授
副島京子先生

◆第114回地域医療講演会
「カテーテルアブレーション
夢と期待から現実へ」
日時：8月23日(金) 18:00～19:30
会場：管理棟3階会議室2
講師：弘前大学大学院医学研究科
循環呼吸腎臓内科学教授
奥村謙先生

す。「近森会は進化し続ける組織」という印象ですが、臨床栄養部も大きく変わった部署の一つにあげられると思います。

名称が2007年3月1日に栄養科から「臨床栄養部」に変わりました。今ではこのような名称を用いている病院が増えてきていますが、当時はかなり希少な名称でした。

給食係から栄養科、そして臨床栄養

部と臨床を意識した組織改革の一環でした。そして、当部署のいちばん大きな改革は「厨房やその周辺から管理栄養士がいなくなり、病棟常駐になったこと」ではないかと思っています。

また人数も大幅に増員することが出来ました。現在では近森病院に22名、第二分院に2名、リハ病院3名、オルソ1名、ハビリ1名と合計29名の管理栄養士が在籍しており、管理栄養士設置全国平均が100床当たり0.9名ですから恐らく全国一の管理栄養士数を配しています。

ちなみに私が着任した2002年には近森会4施設で4名の管理栄養士でした。名称の変更や人数の増加だけでなく、「質の向上」を目指し、これからも研鑽しなくてはいけないと思っています。

みやざわ やすし

ワイン講座 ● 13

ワインの王様 ブルゴーニュ その4

ヴィニュロン(農民)のつくるワイン

ブルゴーニュ滞在中に生産者から感じたことは、つくる人の思想や哲学、そして気候風土や文化をワインの中に表現していることでした。それはぶどうの木の剪定、畑の耕作、収穫、ワインの醸造から販売まで、一貫して行う生産者から強く感じました。

生産量により、品質の高低が決まることではないが、シャトー・ラトゥールが約20万本、ムートン・ロートシルトが約30万本。非公開ながら、ドン・ペリニオンは数百万本。

ブルゴーニュでは、ロマネ・コンティは約5200本、生産量が1樽(約300本)しかない希少なワインも数多く存在します。この数字から、ブルゴーニュが如何に少な

ル・グリオット・シャンベルタン●生産者：クロード・デュガ●フランス ブルゴーニュ地方、コート・ニュー地区●畑の面積は0.1ha、生産量は1～2樽。まさに「農民の造る」手作りのワインです。



いかがお分りかと思います。自分の子供を育てるように造るには、量の限界があります。

農民＝職人。世界中で職人が少なくなっている昨今、ブルゴーニュにはこの職人が多く存在しています。

天候次第で、品質の高低、収穫の量が決まってしまう、一年と同じ味わない農業的哲学のワインたち。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

お弁当拝見 15



朝5時に起床して

近森病院透析室看護師
前田 稲子



朝5時に愛猫の目覚ましにて起床。4人分の弁当を作っています。これからの時期は腐りやすいのでたいへんです。ご飯は米と麦を混ぜています。たまに詰めただけ?の手抜きもあります。が……。

食費を少しでも節約して月に1、2

回ほど娘たちと情報誌やインターネットを利用してランチやデザートのおいしい店巡りをしています。

先月は、ピザ作り体験に行ってきました。ゆず味噌ベースの和風ピザがおいしかったです。

山に囲まれ時間が止まっているかの



ような静かな場所で、胃袋も満たされた上心までリフレッシュできた1日でした。

まえだ いなこ

高知市医師会生涯教育カンファレンス

患者さんの肝胆道系酵素が上がったら……。～急性胆管炎の診断・治療、搬送のタイミング～

近森病院消化器内科

科長 近森 正康



5月30日に総合あんしんセンターで高知市医師会生涯教育カンファレンスの講演を行いました。院内外から49名もの方が参加がありました。

急性胆管炎は短時間で容易に敗血症を来し易く、消化器感染症でも緊急度の最も高い疾患として知られています。腹痛、発熱、肝機能障害、黄疸などが胆管炎を

疑う重要な所見です。胆管炎を疑ったときは速やかな診断と、初期治療を開始しつつ重症度判定を行い、早急に胆管ドレナージを行わなければ数時間でも致命的となることがあります。

近森病院では年間450～500件のERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を行っており、県内でもトップクラスの症例数になっています。緊急ERCPは200件以上で約45%を占めており、そのほとんどは胆管結石や胆膵腫瘍による急性胆管炎です。

適切な治療を行えばそのほとんどは速やかに改善することが可能です。胆管ドレナージが可能な施設への搬送のタイミングを逃さないことが最も重要だと思われます。

ちかもり まさやす

（公財）田附興風会医学研究所北野病院の重田由美先生をお迎えして



「地域連携のツボ！」

近森病院救命救急センター

シニア看護師長 和田 道子

重田由美先生



平成25年5月23日、（公財）田附興風会医学研究所北野病院の医療連携コーディネーターである看護師の重田由美先生に来ていただき「地域連携のツボ！」と題した講演をしていただきました。重田先生は、「地域連携室には看護師が必要！」と、自ら志願し、この仕事に就かれたと話され、これまでの取り組みの紹介や、これからについて講演下さいました。

患者支援の連携室・受診から退院まで確実に繋いでいくためには連携の質を向上させることが大事であるとし、

パスを使用した取り組みなど紹介してくださいました。

終始笑顔の重田先生の講演にぐいぐいと引き込まれ、講演後も話に花が咲き連携の大切さを語り合っているうちに、気が付けば重田由美という人物のツボにすっかりはまっていました。

わだ みちこ

Chikamori ★ Kitchen 23

ゴーヤとシーチキンの塩こんぶ和え

暑い夏が近づいてきました。今回は夏の食材、ゴーヤを使った料理をご紹介します。ゴーヤの独特の苦みは、モルデシンという成分によるもので、血糖値や血圧降下作用などが最近分かってきています。また、他の野菜に比べてビタミンCが多く、βカロテンや、カリウムなどのミネラルも含まれており、夏バテで食欲がないときの栄養補給にぴったりです。

材料（1人分）

- ・ゴーヤ 40g（小1/4本）
- ・パプリカ 40g（1/4枚）
- ・青じそ 2枚
- ・シーチキン 30g
- ・塩こんぶ 適量

<作り方>

ゴーヤは縦半分に切って綿を取り、2

臨床栄養部管理栄養士
主任 内山 里美

～3mm幅に切る。パプリカも種を取り、2～3mm幅に切る。青じそは細かく切る。

①のゴーヤをさっと塩ゆでする。

軽く水気を取った①②の材料と軽く油切りしたシーチキンを合わせ、味を見ながら塩こんぶを混ぜる。

ハッスル研修医 困ったりの連続



初期研修医 川村 幸代

初期研修医として過ごし始めてはや数カ月たちました。毎日小さなことで躓いたり、困ったりの連続ですが、先生方や各職種の方々に優しくご支援いただいてなんとか現状をすごさせてもらっているところです。

研修医デビューしてみて知識、技術、人とのつながりのどれもが大切であることを日々感じています。また、自分といういきものが一番強敵であることにもようやく気がついてきました。同期とも仲良くなれてとてもうれしく思っています。同期がいるから自分に負けずに頑張れるという場面もたくさん経験しました。私も同期を支えられるような存在になればいいと思っています。

私にとって理想の医師像は、自分が病気になった時にみて貰いたいと思えるような頼り甲斐のある医師です。近森病院でたくさんの経験を積み、少しでも社会貢献できるよう、理想の医師像に近づけるよう研鑽を重ねたいと思います。

かわむら さちよ

Mitral conclave 2013 レポート

近森病院心臓血管外科

科長 手嶋 英樹

5月2日の早朝7時より、晴天のニューヨーク、ヒルトンホテルにて第2回 Mitral conclave（僧帽弁手術を中心とした国際学会）が開催され、参加する機会を得た。AATS（米国胸部外科学会、第93回目の本年はミネアポリスで、開催され引き続き参加）に連続する学会で、約1000人の参加者、そのなかには米国を筆頭に著名な外科医が……、気負わない程度に前の方に着席する。

初日午前は教育的セッション、午後からは会場が分かれて夕方まで、二日間にわたり熱心に行われていた。世界をけん引する外科医による最新の情報提示、治療ガイドライン、画像、病理、低侵襲手技、経皮的アプローチ、長期成績など多岐にわたりディスカッションされた。

本大会のまとめ役でもある Adams 先生の困難な症例のセッションは内容が非常にわかりやすく、mitro-clip 使用の再手術例、弁形成後の pannus 症例に対する弁形成再手術など、初めて見る映像で貴重であった。

余談ではあるが、ニューヨークの散策で、映画で見るエンパイアースタートビルは1930年代に作られたとのことで、当時の技術力に驚かされる一方、本学会で語られているビッグな外科医による手術手技に関しても感心するだけでなく、実践を伴わなければならないと強く感じた。

最後に、このような貴重な機会を与

えていただきました近森院長はじめ入江部長、関係者各位に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。 てしま ひでき

AATS（米国胸部外科学会が行われた会場風景



社会医療法人近森会総務部

部長補佐 谷 知明

米国胸部外科学会では史上最強の副大統領といわれた、チェイニー元副大統領のインタビュー企画がありました。入退院を繰り返しながらも政府の要職に10年近く就いていたこと、71歳での心臓移植という適応年齢の高さ、政治家が自身の病気のことをオープンに話すことなど、日本との違いを感じました。

セント・ジュード・メディカル社の工場見学では、心臓弁の製造工程などを見学しました。高い精度管理を要求される工作機械などが日本製だったのが印象的でした。

ピッツバーグメディカルセンターの見学では、グループで3,000人の医師、55,000人の職員という規模の大きさに驚かされると同時に、広域かつ多数の事業所を統括的に運営しているため、無駄なく必要にして十分な医療の提供が可能となっており、日本が学ぶべき点もあると感じました。

前列左から久家由美（看護部）、吉永富美看護部長、明神有希（薬剤部）。後列左から筆者谷、入江博之心臓血管外科部長、筆者手嶋



地域医療講演会●実習編

第5回心臓血管ウェットラボ 「心臓の解剖と心臓治療」

心臓をまったく見たことがない人から透視でしか見たことがない人、さわってみたい人、いまさら他人には聞けない立場の人など、どうぞご参加ください。職種に制限はありません。

※詳しくはホームページをご覧ください。

日時 平成25年11月10日（日曜）

10:00～15:00

場所 管理棟3階会議室

管理部の立場から

保険診療に関しては、在院日数に対する縛りが厳しい一方、治療成績が悪い場合にはプログラム閉鎖となる場合もあり、早く確実に治すインセンティブが働いていました。また、退院後は、近隣のホテルや施設に滞在し、外来通院を行うケースもあり、在院日数の短縮と医療費の抑制に有効に機能していると感じました。

僧帽弁手術の学会で訪れたニューヨークでは、同時期に開催されていた近森会グループオフィシャルカメラマン岡本明才さんの個展を訪問しました。ギャラリーには、特殊な撮影方法（暗箱にデジタルカメラを繋ぐ）により撮影された写真の数々が展示されていました。高知の風景を題材に様々な形に投影された作品に、新鮮な発見と驚きがありました。

今回の研修では、日米の医療制度と文化の違いを体感し、多くの刺激を受けることができました。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。 たに ともあき



◀セント・ジュード・メディカル社にて

New York

岡本明才写真展報告

岡本明才ニューヨーク写真展は6月3日に無事終了致しました。

今回展示をするにあたり沢山の方にご協力いただきましたことに深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

オープニングレセプションには約50名来場し日本領事館の方や多くのアート関係者にお越し頂きました。会期中の来場者は550名でした。

今回の展覧会で映像作家や版画家との出会いや、写真ギャラリーやアートスタジオの見学などニューヨークのアート事情を学びました。

今後の予定

芦屋市立美術館博物館 マイホームユアホーム展参加

2013年8月31日～10月6日

Sketches of the Sun Meisai Okamoto

MAY3-June 1, 2013

Opening Reception:

Friday, May 3, 6-8pm

Curated by Rie Sakaguchi

<http://meisai.jimdo.com/> (English)

<http://meisaiookamoto.jimdo.com/> (Japanese)

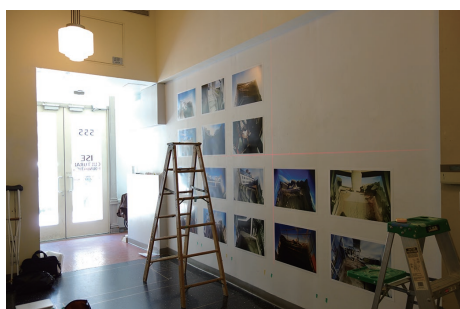
meisaiookamoto@gmail.com

ニューヨークのコンテストへ 参加決定しました！

現代アーティスト公募プログラム
— ISE NY Art Search 2013 —
2013年7月9日—8月23日

応募アーティスト198名のなかから、厳正なる審査の結果、51名のアーティストが選考され、岡本明才さんも、展覧会 ISE NY Art Search 2013 Exhibition への参加が決定しました。

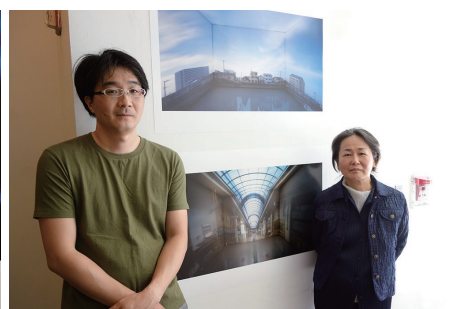
(MOMA 絵画／彫刻キュレーター部門
Nancy Lim 氏が審査員です)



搬入風景



入江先生御一行が来て下さいました



キュレーターの中岡氏と



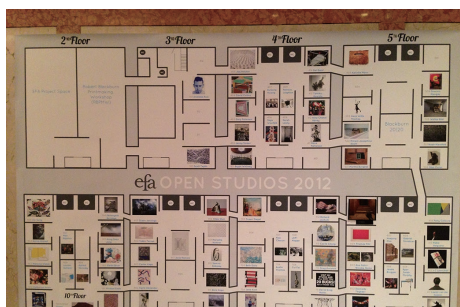
版画家ダコジ氏と交流



オープニングレセプション風景



MoMA に行きました



アートスタジオの見学



映像作家のパーティにて宣伝活動



ニューヨークの街

Sketches of the Sun

Meisai Okamoto

作品コンセプト

カメラの技術革新によって、写真はあまりにも現実をリアルに描写してしまう。人は写真を真実だと思い込んでしまう。

その真実とは何かと突き詰めていくなかで、私はある答えを見つけ出した。最も古いカメラである、カメラ・オブスクラは、風景が、不鮮明に映し出される。直径数ミリ(0.15-0.2ミリ)の穴から光が暗い箱の中に差し込むことで生み出されるイメージ。光の重なりが像と変化し、光景が浮かび上がる。この光景とは、何かと考えたとき、私たちは光しか見ていないという事になる。人は光を感知し物体を認識する手段を獲得したが、物体本来の姿は見た事は無く、反射した光しか見る事ができない。しかし私たちは、物体そのものを見たと思い込んでいる。真実とは、思い込みが作りだした幻である。

制作したピンホールカメラ



展示作品



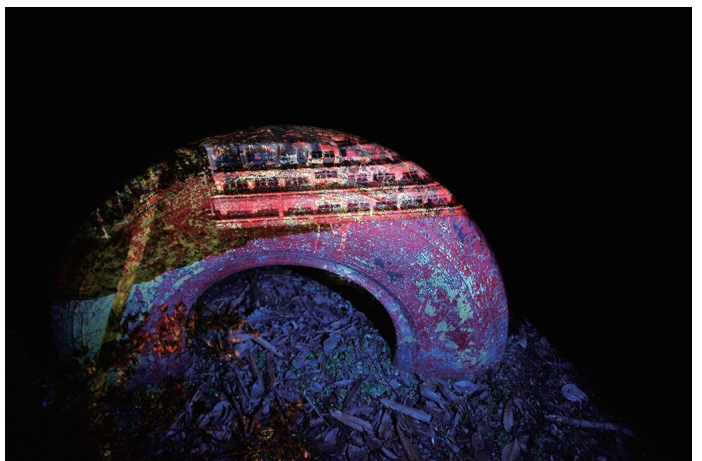
Vu ja de



Camera to Camera



CAMERA



Sketch of sun

2013年6月1日、第13回しまなみ海道100kmウルトラマラソンに挑戦した。コースの真ん中辺り生口橋付近、まだまだ元気この余裕

生活リズムは マラソンを軸に



**走る前にまず歩け、
40キロ歩けるか!**

近ごろのマラソンブームは、東京オリンピック招致構想も兼ねて始まった2007年2月の市民参加型「東京マラソン」がきっかけらしい。

が、川竹さんのマラソン歴は丸一年。ところがまさに「ハマる」感覚で、始めたばかりの昨年6月は10キロを大会で走っただけだったが、11月ハーフマラソン21キロ、今年の2月フルマラソン42.195キロ、6月ウルトラマラソンしまなみ海道100キロ!と、距離も成績も順調に伸びている。理学療法の知識で、ケガにも細心の注意が払える。「自分なりの目標を決めて、達成できたら単純に嬉しいし、ビールの旨さがのどに効く!という感じですし、県外の大会へ出かけることで普段と違う経験もできますし、……」と、マラソンの魅力が次々出てくる。だから、「ハマる」要素がいっぱいなのだが、シドニー五輪金メダリストQちゃんを指導した小出監督の本に、「走る前にまず歩け、40キロ歩けるか!」とあるのを読んで、その苦しさを何とか喜びに代えて頑張る根性をしみじみ思い、その感覚がまた川竹さんにはピッタリくるということらしい。

少し頑張れば手の届きそうな目標を持つ

小学校4年のときに、父親が好きだという理由で野球を勧められ、当時は日曜だけの練習だったが、中学高校を通じて目標の甲子園に極めて近かった筈の高知高校で3年の夏まで計10年ずっと続けてきた。明德高校に阻まれて甲子園の土は踏めなかったが、「頑張れば手の届く場所にいたから、常に上を目指せた」ことは、いまもって大きな財産になっているのだろう。

小笠原正リハ部長は「いまどき珍しいような真面目な青年で、マラソンで

も大会参加が多く、貴重な体験を数々しているようだ」と、趣味も含めた日常生活の幅広さに期待を寄せる。

「痛いですねえ…」をどう実感するか

部活を頑張っていた関係から将来はスポーツインストラクターのような仕事に就きたいと、高3のとき漠然と考えたが、親にまずは普通の勉強をした方が良くと諭され、「普通の勉強のために」法学部へ進み、4年は過ぎたが、やはりスポーツの分野の仕事をしたいという夢は捨てきれなかった。

仕事は患者さん目線で動くことを意識して



当時、大阪の履正社医療スポーツ専門学校に理学療法科が設置され、その新しい学科で学べば自分のやりたいことに近づけると想像したのだった。実習では近森リハビリテーション病院にも来た。卒業後、県外での生活も考えてはいたが親の勧めもあり、近森リハ病院を受験し、「嬉しいことに、たまたま受かりまして(笑)」という生活も、丸3年が過ぎた。

仕事での目標は「患者さんの目線に立って動くこと」で、「しんどい



ね」「痛いですね」という言葉を、いかに自分のものとして実感できるかに悩む。

市民アスリートの努力目標

暑くなるとマラソンにはきつそうだが、オフは自転車と水泳で基礎体力をつける時期だと大まじめに考えているのだ。みんなで一緒に何かをするというよりも、「どちらかという一人で動くのが好きな方」だからか、伊坂幸太郎や東野圭吾の小説を手に、県外のマラソン大会に参加すべく、マラソンを軸とした生活を送る。それが仕事のリズムとも合い、いま気に入りのペースになっている。この8月には北海道、11月に下関、12月は奈良と、当面の「努力目標」もすでに組んでいる。

30歳を過ぎて、周りには結婚した友だちもいるそうだが、「自分は当分は今の生活が続きそうです…」と、市民アスリートの照れ笑いはやっぱり爽やかだ。

リレーエッセイ

ジンジャーパワーに
期待して

近森リハビリテーション病院

外来看護師長 小松 祥子



もともとは暑がりな私ですが、去年の冬は“冷え”を感じ、これはヤバイと思い、ジンジャーを取り入れることにしました。

しょうが大国の高知と、世間のブームもあり、今はいろんな商品が出ているので、試すのにはさほど困りませんでした。試した商品はまだ少しですが、今はちょっと浮気して、長崎のジンジャーシロップを使っています。

使い方もいろいろで、ヨーグルトに入れたり、アイスに垂らしたり。でも今一番はまっているのは、定番の紅茶に入れて飲むことです。甘め

のレモンティーにジンジャーシロップを入れ、ミルクを足し、「しょうが紅茶オレ」ならぬ『ジンジャーレモンミルクティー』（！？）を毎朝飲んでいます。

飽きっぽくてなかなか長続きしない私ですが、身体のためにも、美肌効果も期待して、もう少し続けてみようかなと思ってます。実はまだ効果はなんとなく……、くらいの実感ですが（ビールのせい？）。でもジンジャーパワーを信じて。お得（徳）でおいしい情報があればぜひ教えてください。

こまつ しょうこ

編集室通信

山開き、海開き季節となりました。なにかと空を見上げる機会の多い梅雨は、逆に雲の形を楽しむことは少ないのですが、これからは、雨過天晴の青磁の空や鮮やかな雲の峰に胸が弾みます。夏好きを自負するからには、暑い蒸せるのとの不満は言わず、一番蝉の心意気でまっしぐらに夏を満喫しようと思っています。（ひょん）

2013年5月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,038 人
新入院患者数	855 人
退院患者数	849 人

近森病院

平均在院日数	13.83 日
地域医療支援病院紹介率	85.53 %
救急車搬入件数	377 件
うち入院件数	220 件
手術件数	446 件
うち手術室実施	288 件
→うち全身麻酔件数	170 件

● 平成 25 年 5 月・県外出張件数
件数 60 件 延べ人数 157 人 ●

図書室便り (2013年5月受入分)

・要点イラストとライブ音声解説ビデオで
見る 奥田準二のエキスパートテクニック

1. 腹腔鏡下低位前方切除術、2. 腹腔鏡下
結腸右半切除術／奥田準二（編著）

・OS NOW Instruction 整形外科手術の新
標準 No.26 ダメージコントロール整形外科四
肢多発外傷への対処法／金谷文則（担当編）

・神中整形外科改訂 23 版上巻・総論 全
身性疾患下巻・部位別疾患／岩本幸英（編）

・骨折・脱臼改訂 3 版／富士川恭輔（他編）

・小児整形外科の実践／藤井俊男（編）

・卵巣腫瘍取扱い規約第 1 部組織分類な
らびにカラーアトラス 2009 年 12 月（第 2 版）

／日本産科婦人科学会（他編）

・子宮頸癌取扱い規約 2012 年 4 月 第 3
版／日本産科婦人科学会（他編）

・子宮体癌取扱い規約 2012 年 4 月 第 3 版
／日本産科婦人科学会（他編）

・絨毛性疾患取扱い規約 2011 年 7 月 第 3
版／日本産科婦人科学会（他編）

・看護管理学習テキスト第 2 版（2013 年度
刷）1 巻～7 巻／井部俊子、中西睦子（監修）

・精神病院を捨てたイタリア 捨てない日
本／大熊一夫

・何を、いつまでに、どうすべきか 行動
レベルでわかる主任業務見える化／大阪厚
生年金病院 看護部主任ワーキンググループ

・伝え方が 9 割／佐々木圭一

・新訂 保険者、公費負担者 番号・記号表
平成 25 年 4 月版／社会保険研究所（編）

・障害年金請求 援助・実践マニュアル 精

神障害者の生活を支えるために／精神障
害年金研究会

・カモメになったペンギン／ジョン・P・コッ
ター（他著）

《別冊・増刊号》

・別冊・医学のあゆみ がんの疫学 Update
ーがん予防のための最新エビデンス／津金
昌一郎（編）

・腎と透析 Vol.74 増刊号腎疾患治療薬マ
ニュアル 2013-14 / 『腎と透析』編集委員
会（編）

・病理と臨床 Vol.31 臨時増刊号 細胞診の
基本から実践へ／羽場礼次（他編）

・デンタルハイジーン別冊長期メインテナ
ンス症例から考える！経過観察の意味～歯
科衛生士は患者さんとのように関わって

きたのか～／鷹岡竜一（他編著）

・別冊 NHK きょうの健康 ひざ痛を治す 正
しく動かす元気に歩く／宗田大（総監修）

・臨床栄養別冊栄養ケアマネジメントファ
ーストトレーニング NCM シリーズ Vol.5 消化
器疾患／外村修一（他編）

・Nursing BUSINESS 2008 年夏季増刊組織
を守る！看護の法令順守とガバナンス／山
寄絆（編）

・透析ケア 2013 年夏季増刊食事療法がま
るわかり！透析患者の栄養管理と食事指導
／田村智子（編著）

・泌尿器ケア 2013 年夏季増刊患者さんへ
の説明にそのまま使える！泌尿器がんのす
べて／羽淵友則（監修）